

京都国立近代美術館  
友の会会報

2006  
EARLY WINTER  
第12号



都路華香 埴輪(左隻) 大正5年(1916) 京都国立近代美術館

展覧会の



見どころ

## 都路華香展

11月17日[金]—12月24日[日]

休館:毎月曜日

つじかこう

### 都路華香展ご案内

京都市内に生まれた都路華香(明治3年-昭和6年)は、満9歳の時に幸野樞嶺に師事します。折しも社会は近世から近代へと移り変わる最中で、東京と同様京都でも、新しい時代に即応した絵画の創造を求めて多くの若手画家達が意欲的な作品を発表していました。中でも樞嶺門下生の活躍は目覚ましく、華香も竹内栖鳳らと共に同門下の四天王と呼ばれ、京都後素協会展や新古美術品展など京都内の展覧会だけでなく、内国勸業博覧会、絵画共進会など全国的な展覧会でも受賞を重ねます。明治40(1907)年に文部省主催美術展覧会(文展)が開設されると、その第1回展から出品、第10回展では《埴輪》が特選となるなど文展でも活躍、大正8(1919)年文展は帝国美術院主催美術展覧会(帝展)と改組され、13年の第5回展からは審査員を務め、京都を代表する画家の一人として、近代京都画壇の隆盛を支えます。一方、自身の画塾での指導だけでなく、明治43年からは京都市立絵画専門学校、大正2年からは京都市美術工芸学校で教鞭をとり、やがて両校校長として次代を担う優秀な若手画家達を多く育て、教育者としての活躍も見逃せません。

幼い頃から学んだ四条派の画風に、建仁寺の黙雷禪師に参禅して得た精神性を交え、新技法を積極的に取り入れた画風は、現代の我々から見ても非常に新鮮です。最近では、その画風が海外で愛され、アメリカに多くの作品が所蔵されています。

《松の月》、《良夜》、《白鷺城》、《十牛図》などの代表作、それに《緑波》などアメリカから里帰りする作品を含む、華香の初期から最晩年の絶筆《黙雷禪師肖像》までの作品約90点と大下図、素描、資料等を展示する本展は、遺作展以来初の本格的な回顧展であり、永らく脚光を浴びることのなかった華香芸術を改めて世に紹介し、併せて、近代京都画壇への理解を深めていただくとするものです。



高野詣 大正15(1926)年 京都国立近代美術館



鴨渚煙雨図・昭和4(1929)年・Collection of Griffith and Patricia Way

#### 展覧会予告

〈揺らぐ近代—日本画と洋画のはざまに〉

2007年1月10日(火)~2月25日(日)

(休館:毎月曜日及び2月13日(火))

コレクション・ギャラリーの小企画

コレクションに見る「日本画と洋画のはざま」

友の会秋の見学ツアー(2006年10月15日)

丹波路に秋を求めて — 兵庫陶芸美術館への旅

丹波に焼き物を見に行く旅は、実は二度目です。前回は1969年6月のことで、実に38年も以前のことになります。当時は、「丹波古陶館」と呼ばれ、開館間もない小ぢんまりした展示館でしたが、町の助役さんたち総出の歓迎を受けたのも、なつかしい思い出です。当時は、高速道路がまだ未整備で、京都から国道9号線を西へ、京都府園部町から天引峠を越えて、篠山町へ向かいました。丹波栗の林が続く新緑の丹波路は気持ちよかったです。今回は高速道路利用で、二時間弱で目的の兵庫陶芸美術館に到着しました。同館も開館からまだ日が浅いようですが、以前の館より規模が大きく、展示会場も整っています。開催中の「人間国宝・松井康成展」を、同館の学芸員に解説をいただいて、ゆっくり見学しました。同館の喫茶・レストランは広々として見晴らしがよく、昼食はそこでいただきました。団体での食事としては、雰囲気が潇洒で、観光地の食堂にあり勝ちな、プロイラーの養鶏場的なところがなく、素敵でした。

松井康成展見学後、再びバスに乗って、数丁しか離れていない立杭陶の郷と銘打った焼き物の里へ降りてゆきました。前の見学会の時は、ホトギスの鳴き声を聞きながら、溪間にある立杭の市野弘之氏の窯を見学し、ロクロ成形を見学させていただいたのですが、今回は設備が整って、誰でもロクロや成形や絵付けを楽しめる総合的な施設が出来ていて、そこで、湯飲茶碗の絵付けを全員で試みました。厚手の重い湯飲みなので、熱々の番茶を注ぐと美味ではないかと、話し合っ、約30分ほど遊ばせて貰いました。その後、これも、各窯元がブースを持つ販売コーナーに回り、それぞれお目当ての陶器を買ったり、ただ、眺めて楽しんだり、午後の陽が夕影に移る3時頃まで滞在しました。帰路は高速道路に事故があったらしく、宝塚あたりまで渋滞しましたが、未だ明るいうちに、美術館の前まで、無事帰着することができました。

昨年春の信楽でも、同じ感想を持ったのですが、各県

や市町村が町おこしのために、設備を整えるのは、地方の活力を引き出すために必要なことかも知れないし、見学する側にも、新たな楽しみを与えるものかも知れないのですが、どこか画一的で、ベルト・コンベアーに乗った見学で終わってしまいます。今後は友の会でも、もう少し肌理の細かい見学を心掛けてゆきたいと、これは自省を込めての感想です。また、来年の春を楽しみにお待ちしております。

(友の会事務局長・加藤類子)



(上)絵付け体験 (下)陶芸美術館前にて

## コレクション・ギャラリーの小企画

### 「コレクションに見る明治」

11月7日(火)―12月24日(日)

今回のコレクション・ギャラリーの小企画は、都路華香展に合わせて、「明治」に焦点を当てています。富岡鉄斎<富士遠望・寒霞溪図>(6曲1双屏風・明治38年)、竹内栖鳳<蕭条>(6曲1双屏風・明治37年頃)などの大作の他、橋本関雪<失意>(明治42年・第3回文展)や、新時代の文人画であるとともに、プロレタリアという新しい階級をテーマにした、秦テルヲの<当世風俗二題(工事場・夜警)>、あるいは田村宗立のめづらしい記録画<京都駆黻院図>も展示しています。この施設は、建仁寺の中に建設されたもので、近代的な病院の、初期の姿として興味を引かれます。明治18年の作です。

洋画では、浅井忠の京都時代の門下生が多くのすぐれた水彩画を遺していますが、当館には、そのかなりの数が

収蔵されています。例えば、田村宗立に師事した、伊藤快彦<柳馬場より平安神宮を望む>(明治28年頃)は、建都1100年記念に建設された平安神宮の真新しい姿が偲ばれて興味深いでしょう。

なお、12月26日(火)―07年2月18日(日)まで、「コレクションに見る<日本画と洋画のはざま>」の小企画を予定しています。



富岡鉄斎<富士遠望図・寒霞溪図内望遠図>

## 友の会の催し

### 友の会コンサートご案内 弦楽四重奏の夕べ

■12月23日(土・祝日)

■午後6時開演

■当館1階ロビー

■曲目

F.J. ハイドン：弦楽四重奏曲第67番二長調「ひばり」op.64

W.A. モーツァルト：ハイドン四重奏曲「不協和音」K.465

F. シューベルト：弦楽四重奏曲第14番二短調「死と乙女」D.810

### ニューイヤーコンサート

■2007年1月13日(土)

■午後6時開演

■当館1階ロビー

曲目は未定ですが、打楽器が中心となる予定です。

友の会会員は参加予約が可能です。締切は一週間前ですが、年末年始の郵便事情がありますので、お早目に。

### 友の会会員を募集しています!

友の会には年会費5,000円(学生は3,000円)でご入会いただけます。また、美術館をサポートしていただくため、年会費20,000円の特別会員、年会費一口100,000円の法人会員へのご入会もお願いしています。本館の展覧会その他の事業へのご参加のほか、他の国立美術館常設展へもご入会いただけます。この機会に是非ご入会下さい。

- 開館時間  
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 夜間開館  
4月15日(金)―9月2日(金)までの企画展開催中の金曜日  
午前9時30分～午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
- 休館日  
毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は、翌日が休館)、及び年末年始  
(開館時間、休館日は臨時に変更する場合があります)

※お車でお越しの場合 岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

### 交通案内



独立行政法人国立美術館

## 京都国立近代美術館

The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町  
TEL. 075-761-4111

テレフォンサービス 075-761-9900  
ホームページ <http://www.momak.go.jp>